

平成 30 年度 第 9 回西区自治協議会会議録

日時：平成30年12月21日（金）午前10:00～

会場：黒崎市民会館 2階 多目的ルーム

< 1 開会 >

(岩協会長)

本日は、自治協議会の認知度向上のため、黒崎市民会館で出張開催をさせていただきました。自治協議会委員の黒崎南ふれあい協議会長の菅委員から「黒崎の歴史」について、お話をいただきたいと思います。

< 大谷委員説明 >

(岩協会長)

< 2 議事 (1) 部会の状況報告 (通常部会・特別部会・推薦会議) >

それでは議事に入ります。(1) 部会等の状況報告でございます。各部部长、簡潔に報告をしていただきたいと思います。それでは第1部会からお願いいたします。

(寺瀬委員)

第1部会の報告をさせていただきます。前回、大谷部部长が用がありまして欠席ということでしたので、私から報告させていただきます。所管分野や開催日、会場等、そして出席者については記載のとおりですので、ご覧ください。主な議事といたしまして、平成30年度に開催いたしました防犯に関する講演会と防災カード作成の事業評価をいたしました。どちらの評価についても検討を重ねた上で、3月の本会へ提出するというにいたしました。

まず最初の防犯に関する講演会の事業評価です。アンケートをみんなで共有した上で検討を重ねました。委員から出された主な意見は、会場が満席にならなかった。それが残念だったということ。その理由として開催日が3連休の中日ということもあつたり、敬老会と重なっていたりということで、なかなか難しかった。それでも保育園や小学校、大形スーパーにもチラシを配布して、若い方の参加が若干増えていったと。今後もPRをする方法をもう少し考えなければならないのではないかといった意見が出されました。

防災カードについて委員から出された意見は、配布はしたけれども、携帯してもらうための工夫が必要なのではないか。さらにいろんな機会に委員の皆さんに、実際にこうして使っているよというようなことで、配布後、それを実際に活用していただくような声かけをお願いしたいという話ですので、皆さんどうぞよろしく願いいたします。さらにまだこの防災カードは区役所に若干残っているそうです。事務局に声をかけていただいて、これからいろんな所で利用していただくような工夫をしていただきたいと思います。

既にご承知かと思いますが、今年度の12月14日、なかなか西区の情報が日報に載らないよねということでしたけれども、「災害時の対処法 手元に」ということで、部会長の呼びかけとともに掲載されておりましたので、併せて報告させていただきます。

この次の会議は1月15日、10時半からに決まりました。以上です。

(岩協会長)

ありがとうございました。ただいまの第1部会の報告でございます。何かお聞きしたいこと、分からない点がありましたらお願いします。今日せっかく日報の記者がいらして、高橋委員が掲載依頼したところを聞いていましたけど、西区のPRといいですかね。自治協のPRをしていただきました。どうもありがとうございました。

(岩協会長)

なければ、第2部会の報告をお願いいたします。

(郷委員)

第2部会です。第2部会、所管分野は保健福祉、文化、教育等です。開催日時、会場、出席者は書かれているとおりです。主な議事の1番目、平成30年度自治協提案事業の評価についてです。健康寿命延伸に関する講演会事業について、アンケート結果などを基に事業評価書案の検討をまとめ、3月の本会へ提出することとしました。委員から出された主な意見は下記のとおりです。健康寿命延伸に向けて、幅広い年代に興味を持ってもらえる内容を講師に依頼した結果、さまざまな世代の会話につながる内容や、すぐに実行でき、人に伝えたい具体的な内容になった。これはちょっと抽象的なのですが、皆さんのアンケートの中から、すぐにでも夫に伝えたい、嫁に伝えたいと、孫に話してあげたいとか、そんなふうな、人に発信していきたいなというふうな感想がたくさん挙げられていました。本当に分かりやすく、先生のほうから脳を活性化するための簡単な訓練方法とか、やはり脳が壊れていくよというような話があったことが、来てくれた方の心をつかんだのではないかなと思っています。

ただ若い世代からも本当に聞いてもらいたくて、新たにチラシを保育園とか小学校、大型スーパーへ設置いたしました。なかなか若い世代がたくさん来るという結果にはなりません。でも例年に比べては、26人という、この数をどう捉えるかですが、今までほとんど20代、30代はゼロだったので、少しは関心があったのかなと。ただやっぱり若い世代は紙ベースの情報がなかなか目に入りにくくなったなという意見も出ていましたので、PR方法に工夫をしていくことが必要と考えております。

2番目です。平成30年度地域課題解決に向けた事業提案「西区の宝サポート事業」です。これは「地域カルテ」から始めるまちづくり“次の一步”研修会の振り返りを行いました。今回はまだ西区の宝サポート事業がもう2つ12月に計画されていますので、評価案に関しては、この2つが終わってからまとめてということでしたが、このワークショップに

については、委員からこんな意見が出されてきました。

地域カルテの数字を可視化することで、高齢化などを実感でき、そしてその情報を提供する場となることができましたとか、この西区には15コミ協あるのですが、その全部のコミ協からメンバーが参加してくださったので、それぞれコミ協には持ち帰っているはずなのですが、その持ち帰り方、各コミ協への発信の仕方が、この2回の研修会だけでは難しいのではないかとか、ただこれを聞いて、若い世代にどんどんたすきを渡していかなければならない。そのときに今までどおりの事業をやっては渡せないとか、今までどおりの時間とか、回数で会合をやっては渡しきれないとか、そんなことに気付かされたという意見も出てきました。

3番、その他です。事務局より各事業の開催と当日の役割分担についての連絡をいただきました。西区の宝サポート事業。一つが「スポーツ鬼ごっこ西区Cup2018」。これは先週の日曜日、みどりと森の運動公園で行われました。子どもとあと保護者の方を合わせて、18チームが参加してくださいまして、とても盛況でした。子どもたちはやはりスポーツと、各地域のスポーツ振興会の事業やふれあいスクール事業の中で、スポーツ鬼ごっこが普及してきているなということを感じました。ゲームを見ていると、皆さん本当に作戦を立てて、考えて、走ってという場面がたくさん見られたので、とても広がりを見せた会だったのではないかなと思っております。

あとは来週、12月26日、年末ぎりぎりですが、第1回の西区カーリンコン大会が、西総合スポーツセンターで行われます。午後1時からです。興味のある方はぜひご覧になってください。

4番です。次回の開催日程。次回は来年1月15日の火曜日、午後3時30分からです。平成31年度の自治協提案事業について、あとは来年12月は民生委員の改選時なので、民生委員の仕組みとか改選についての委員の中の情報共有ということで、勉強会を開催する予定です。以上です。

(岩協会長)

ありがとうございました。ただいまの第2部会の報告でございます。何かご質問、ご意見等がございますでしょうか。坂井委員、お願いします。

(坂井委員)

部会の中身についてのお話ではないのです。第2部会が所管する福祉の部門で、今地域包括ケアシステムづくりというのが、ずいぶん全国でいろいろな所で問題になっておりまして、ものすごくいろんな本とか報告文書が出ているのですね。私が持っているだけでも、名前そのまま「地域包括ケアシステム」とか「地域包括ケアシステムのすすめ」なんて本がありますし、厚労省の委託研究に、地域包括ケア研究会という所が毎年報告文書を出しているんです。「地域包括ケアシステムと地域マネジメント」、その次が「2040年に向けた挑戦」という中身。私がびっくりしたのは、公正取引委員会は介護分野に対しての調査報

告書を出しているのです。読んでいないので、なんで公取がこういうことをするのかなどというのは何となく分かるんだけど、申し上げたいのは、地域包括ケアというのは、決まった全国共通の青写真があつて、そこにみんなで進んでいくんだということではなくて、どうも読むと、いろいろ地域によって、医療や介護施設の存在だとか、地域の助け合いの状況だとかによって全部違う。形がまちまちで、今手探りでそれぞれやりながら、その地域にふさわしいものを作っていくんだということが今のことであつて、われわれ自身もやっぱりそういう意識でこの問題に取り組んでいくことが必要だと思います。そのために今全国で経験を学んだり、勉強したりということがありますが、それが2025年に私の団塊の世代は全員75歳以上になります。2040年というのは段階のジュニアが全部65歳以上になるということで、2040年に受けて、そういう仕組みづくりを作っていくというのが、今の課題だということをやっと読んで感じたところであります。以上です。

あとさきほどの防災カードですが、うちの地域の茶の間にもこの間の忘年会で36人集まりましたので、皆さんに配りました。

(岩協会長)

ありがとうございました。第2部会の報告について、ご意見ご質問等がございますでしょうか。

私からちょっとコメントなんですけど、人口減少の研修会ですが、私は非常に良かったんじゃないかなと思います。自分の地域の減少傾向が非常に身近に分かったということで、これをもっともっと地域住民の皆さん方にまず広げて、自分のエリアのことをどういうふうに今後10年、20年、次の2045年かな。そのときはすごい減少率ということをや地域住民に知ってもらわないと、みんな老々介護になるわけですよ。

そうすると介護保険と医療保険がかさむ。そうするとおのずと国の財源から持って来るということをや、一人一人がやっぱり考えていかないとまかない。ということで先ほど坂井委員がご説明いたしました、地域包括ケアシステムと、そういう大枠の中で進めておるということでございます。

この前、村上でありました県の福祉大会に行きました。そうしたら基調講演がありまして、村上のあの近辺の3つのエリアの方々が発表しておりました。これはみんな茶の間、地域包括ケアシステムの一環なんですけどね。そしてまだ歴史が浅いということで、取り組みを一生懸命やっておるということですけど、新潟市の場合も日本全国でもAクラスに行っているのではないかなと私はそう思っております。ただ自治会と茶の間、老人会等々のやっぱり認識がまだまだ整合性が取れていないということは話は聞いておりますので、これから一人一人が人口減少に向けて、地域包括ケアと一緒にやることを肝に銘じて、これから皆さん方、活発な議論をしていただければありがたいと思っております。

なければ、第3部会、お願いいたします。

(塩川委員)

第3部会、申し上げます。所管分野は農林水産業、商工業、交通等でございます。開催日時、会場、出席者等は記載のとおりでございます。主な議事といたしまして、平成30年度自治協提案事業の評価、西区の特産物・観光地カレンダー事業についてです。アンケート結果の速報等を基に事業評価の検討をまとめ、3月の本会へ提出することといたしました。委員から出された主な意見等は下記のとおりでございます。掲載写真を区内高等学校の写真部学生に撮影していただくことにより、制作にあたって、住民が参加した魅力あるカレンダーになった。同一月に掲載される写真、特産物、観光地等に統一感があれば、より効果的に魅力を発信することができたと考えます。

次回第10回の開催については下記のとおりでございます。議題といたしまして、平成31年度自治協提案事業について、ほか、以上でございます。

(岩協会長)

ありがとうございました。ただいまの第3部会の報告でございます。ご質問、ご意見等がございますでしょうか。なければプロジェクトチームの報告に移ります。プロジェクトチーム1ですね。お願いいたします。

(鍋谷委員)

プロジェクトチーム1です。第9回の部会報告をいたします。日時、会場、出席者は記載のとおりでございます。主な議事、第28号の校正をいたしました。その結果、今印刷業者で行っている段階だと思います。本日お配りしたかったのですが、本会が21日と、ちょっと月末まで届きませんでしたので、間に合いませんでした。また次回にお配りすることで、よろしく願いいたしたいと思います。

それと同時に次の号、3月31日発行の29号の企画をいたしました。1面は支え合いの取り組み及び本会出張開催について。この出張開催は今年度、これで2度目でございますのでこういうふうにして実施されたということ、本当に簡単な記事になりますが、それと今日も会議が行われますので、支え合いの取り組みの今までの経過についてご報告したいと思っております。

2面、3面は、一つは各部会の振り返り、年度末号になりますので、どういうことをやってきたのかということ、これも簡単にご紹介したい。それからカーリンコン及びスポーツ鬼ごっこと教育ミーティングの報告についてです。

4面は、一つは公募事業の募集について。これは平成31年度の公募事業の募集告知を出します。2番目はクロスワードパズルの答え、アンケートの報告です。「知ったクなくトク街のタネ」、これも皆さんには大変好評で、毎号載せてなんて言われてもいるんですけども、これはスペースの関係で他の応募状況を見ながらということで、編集計画を立てました。

めくっていただきたいと思っております。ちょっとプロジェクトチーム1にしては大きい事業

変更案のお話でございます。来年度からの広報紙発行についてでございます。今のような形で広報紙 29 号まで発行になりますが、平成 31 年度からちょっと検討したいということで、事務方のほうからいろいろご説明をいただきまして、部会でも検討しました。その内容でございます。

広報紙の配布方法ですが、現在はご存じのように自治会を通しまして、回覧板などに入れたり、各家庭に配布ということで、全世帯に配布を自治会のほうにお願いしてきているわけです。先ほど郷部会長からお話がありましたように、先回の地域課題、地域カルテの課題として、1 番は会長がおっしゃった人口減少でございました。2 番目の課題として、自治会等の担い手不足。このことが話題になりました。担い手不足の中に、やはり非常にいろんな業務。例えば配布物が多くて大変だということもあって、この点を何とか自治会の負担を一つ軽くせざるを得ないと、しなきゃならないということで、来年度からこの広報紙を新聞折込に変更したいと、こういうことの提案がありました。発行回数については、年 4 回今まで発行していますが、新聞折込でもやっぱり費用が今度はかかってくるわけですので、その辺と、もう一つは発行回数を減らせば、なかなか皆さんに活動の状況を伝えられないということの両面から、発行は 3 回、そしてもう一回は西区の区だよりの中の 1 ページでしょうか。それをこの広報紙に充てる。従ってそれでいけば、発行回数は減らないということになります。

ただ西区だよりと同時に新聞折込ということになりますと、形も今までのものと、2 つ折りでないものにしなければならないということで、この縦長の西区と同じような形、タブロイド版、その両面という提案がございました。それで審議の結果、いろんな面から考えれば、今までに対する愛着もあるものですから、残念な思いもあるんですが、量的にはそう減らないんだし、考えなきゃならないかなということだったんですけど、長くなってすみませんが、先回の運営会議で、またいろんなご意見をいただきました。

それで今申し上げた内容については、本日は一次提案にさせていただいて、もう一回部会で、それから運営会議で話し合っ、その後 2 次提案というのか、報告というのか、そういう形にさせていただきたいということで、予備提案のような形で本日お話をさせていただきました。以上で新しい年度の広報発行については終わります。次回の部会はその記載のとおりです。以上でございます。

(岩脇会長)

ありがとうございます。今広報担当のほうは悲痛なことと言いますか、この前、運営会議でもいろんな議論をいたしました。ただ広報というのは非常に住民に対しての一つの周知方法の一つだということでございます。私の勝手な思いですけど、その背景には新潟市の行財政改革で、事務作業量の改革ということが今うたわれているということも私ながら理解しております。ということは、相当行政の、今地域課の方々からご協力いただいております。どこまで私どもが全てを依頼していいのかということになります。非常にこれは大きな問題だと思っております。

ということで、以前もありました。私の自治協提案事業につきましては、可能な限り自治協委員の一人一人がそこに参画をしてやるものだという事は、常に皆さん方は認識していると思います。ところがまだまだそういった面では行政の力を借りないと、やはりそういう大きな目的の遂行にいかないというふうに私自身も思っておりますけどね。これからは何と言いますかね。行政に頼るんじゃなくて、自ら一人一人が自治協議会広報紙及びいろんな公募事業もそうですけど、そういったものに関心を持って協力していただければなど、私はこう思っております。

今、鍋谷部会長が、これは一時預かりですよということですけどね。自治会としては私、理解はしておりますけど、ただ広報という意味で言うと、ちょっといかがなものかなと思うんですけども、かと言ったってね、今のところはいろんな弊害があって、妙案が思い浮かびません。ということでございます。皆さん方、ご意見等がございましたら、こうしたらいいということ。ではお願いいたします。

(岩沢委員)

私からは、私のコミ協もそうなんですけども、確かに一世帯一枚というのは莫大な資料になりまして、経費もかかります。当然だと思います。新聞ということも大事でありますけども、新聞もみんなが取っているかといいますと、今最近是非常に少なくなりまして、できたら私どものコミ協もそうなんですけど、班単位、それから組単位で配布数を作ります。例えば私ども東五十嵐自治会は550、560ありますけれども、10分の1の数でやってもらっています。従って本来550必要でありますけれども、10分の1、50部でいいと。なぜならばいろいろな資料がありまして、ものすごく部数もいろいろなあれがあって、ポストにも入らないということがありまして、むしろ一世帯一枚よりも班単位、組単位でやれば、非常に数が少なくなるのではないかと考えております。

(岩協会長)

ありがとうございます。そういう意見もございます。坂井委員、お願いします。

(坂井委員)

私はこれを見て非常に残念だなと思っておりました。今部会長、鍋谷部長から一次提案ということなので、ちょっとほっとしているんですが、新聞折込ですと、私は広告というのはみなさんあまり良く見ない。回覧板で回ってくると、確かにいろいろ大変な所がありますけれども、一応みんなが目にするので。理由は、ここに書いてあるのは経費節減ということじゃなくて、自治会の負担軽減のためにそうしたんだと書いてあって、確かに自治会にはいろんな負担があるけれども、自治協として全区民に状況を知っていただくために、このまま今の形でぜひ継続してほしいと私は思っています。私は今年度で委員をやめますから、私が直接関わるわけではありませんけれども、そういう希望を持っています。以上です。

(岩協会長)

ありがとうございます。今、2名の方からご意見がございました。確かに、自治会には配りものがあります。ほとんど行政からの配りものも多い、最近数年は減少しておりますが、それ以外の団体から、例えば学校コーディネーターだよりとか、学校であるとか、またいろんな社協とかいろんな団体がそれに減らした減少分より上回っている状態で、自治会の人が非常に困っているということだと、私は自治会長をやっておりますから理解しております。ただこの前の除雪のパンフレット、こういったものについては、これは絶対私自身は、一人一人がこれを家庭に置いて見て、そして自分たちの、こういうこと書いてありますよね。除雪はこういうことです。こういうものまで回覧だとすると、これは住民の私どもに負担がかかってくるということで、もう避けて通れない、人の命とか防災とか、こういったものについては、これは従来通りのやり方でやっていかないと。優先順位を付けるということですよ。ということで、私は何でもかんでも、何と云うかな、回覧の範囲というわけにも、ものによっては違うということをごさ方々に認識を新たにしたいと思います。田中委員、お願いします。

(田中委員)

先ほど岩沢委員が言われたように、部数を減らして大丈夫だと思います。うちの町内でも回覧で一部ずつ回しますけど、最後はほとんど残ってきますからね。それだったらもったいない。先に言われたように、岩沢委員のように班単位だけで大丈夫だと思うんです。今私の町内では、アパートには一切そういうのは配っておりません。それもありますし、だからあれだけ回覧がいっぱいあると私達も大変なのです。本当に毎回。今は今年中に3部か4部ぐらいまた回覧する予定でいますけど、なるべく部数は少なくしてもいいかなと、私も思います。以上です。

(岩協会長)

ありがとうございます。他に何かご意見等が。お願いいたします。

(木村委員)

回覧板って、やり方じゃないかなと思うんですけど、各自治会が班に下ろして回覧して、各世帯1部ずつお取りくださいというのと、田中委員が今言われたように、取らないで次の人に回すということがあると思うので、ちょっと大変だと思うんですけど、各班長さんが自分の班の世帯の所にポストインをするという方法。それができれば各世帯に配布できるんじゃないかなと思うのと、班長さんは大変だと思うんですけど、そういう方法と、もう一方で、一度に小学校、中学校、そして清掃関係のものなどが一度に回りますと、読みなさいと言っても、早めに回さなければならぬので、斜め読み、むしろ虫読みみたいにして読んで回す、そういうのがいいのか、悪いのかと思うので、やはりみんなしっかり読ん

でいただきたい。小学校であろうと、中学校であろうと、一生懸命に書いてくださるお便りなので、回覧のものについてはしょうがないですけれども、世帯数に配布するものについては、ご苦勞でもポストインしたほうがいいのではないかなと、私は思いました。

(岩協会長)

分かりました。他に何かご意見ございますか。いろんな意見ございます。今木村委員が言ったのも、これも一つの方法じゃないかな。回覧が回るのは大体日中なんですよ。働いている人は家にいないですよ。そういうのもあるんじゃないかなと思うし、やっぱり必要なものについては、木村委員が言った個別のポストインもこれも一つの方法じゃないかな。これが広報紙に該当するかしないか、これは別でございます。ということで、いろんな意見がございますので、またこれを議論したら時間がかかりますので、いろんな形で、最終的に決めていかれたほうがいいのではないかとということでございますので、部会長、再提出ということでございますので、もう少し私、運営会議と皆さん方で議論をして、良い方向に持っていければありがたいと思っています。プロジェクトチーム2は今回休会となります。

続いて、委員推薦会議の報告をいたします。浅妻座長、お願いいたします。

(浅妻委員)

推薦会議の会議概要を報告しますが、この後、この会議にはグループワークが予定されていると思うので、重要な点だけ報告させていただきますので、ご承知おきください。

会議概要について、開催日時、会場、出席者は記載のとおりです。公募委員の募集について、公募委員の数については、前期同様の3名。次に、応募資格については、西区自治協議会の公募委員として、過去に2期、1期は2年ですが、過去に2期活動したことの無い者を加えるに改正を行いました。

それから公募委員の公募については、1月7日から2月6日までの期間として募集を行うこととして、次ページ以降に公募に関する要領と、その裏に応募の募集内容が載っていますので、後でご覧いただきたいと思います。

また、応募様式、審査基準を確認しました。応募数が募集人員に達しなかった場合は、1回に限り再募集を行うということ。なお、再募集しても達しない場合は、欠員にすること。それから審査の結果は合格者が募集人数に達しなかった場合、再度募集を行うかは、そのときにまた推薦委員会で検討させていただきたいと思います。作文の字数については、字数厳守として募集するということが決まりました。

それから次のページ、委員の全体構成については、そこに書いてあるとおり、方向性を示しました。この方向性を基に、次回の会議において、委員構成案を示すことにしました。次回は記載のとおりです。先ほど申しましたが、次ページの公募に関する要領、それからその裏に記載してあります募集内容をご覧いただきたいと思います。以上です。

(岩協会長)

ありがとうございました。ただいまの報告について、何か分からない点がございましたら、お願いいたします。公募委員の制度ということは、もう皆さん方すでにご承知かと思えます。多様なものを取り入れて、そして区政なり市民に何と言いますか、問題提起をすると、重要な役割を持っております。ただ地域事情によって、新潟市全体で言うと、公募委員の応募が少ない区もありますし、多い区もあります。皆さん、公募委員にふさわしいという方がおられましたら、周知をお願いします。

< 2 議事 (2) 平成 31 年度特色ある区づくり事業 事務局案の追加について >

(岩協会長)

それでは、時間もございませんので 2 の議事 (2) 平成 31 年度特色ある区づくり事業、事務局案の追加についての説明です。事務局からお願いいたします。

(堀地域課長)

地域課の堀でございます。よろしく申し上げます。議事の (2) 平成 31 年度の区づくり事業の追加案について説明をさせていただきます。座って説明いたします。皆さまご承知のとおり、区づくり予算は区役所の企画事業と皆さま自治協議会の提案事業で構成されております。このうち来年度の自治協提案事業につきましては、先月 11 月の本会で皆さまからもご承認いただきました。本日、資料を改めて配布はおりませんが、一つは地域課題解決に向けた事業の募集。4 つのテーマで募集するものでございます。もう一つは西区のアートフェスティバル。この 2 つの事業に委員の皆さまから来年度取り組んでいただくこととなっております。予算額としては、合わせて 380 万円を見込んでおるところでございます。

ここで今日お配りをしております、お手元の A 3 縦の資料 2 をご覧いただきたいと思えます。この資料は 9 月の本会で説明をさせていただきました、区役所企画事業の説明資料でございますが、冒頭申し上げました自治協議会の提案事業の決定を受けまして、区役所企画事業の一部を拡充をさせていただき、地域課題の解決に取り組んでまいりたいと考えております。具体的には資料の中で赤字でお示しした部分でございますが、1 ページ目、それから 2 ページ目、3 ページ目と 3 つの事業となっております。予算額といたしましては、前回 9 月の説明をさせていただきましたときから、合計で 120 万円の増額となっております。

それでは拡充した内容につきまして、初めに健康福祉課、その後私、地域課から順に説明をさせていただきます。

(渡部健康福祉課長)

お疲れさまでございます。健康福祉課の渡部でございます。日々お世話になっております。それでは今ここで赤字になっている部分、⑥共生の西区づくりの推進ということで

説明させていただきますが、農福連携マッチング機関と連携を図りながら、障がい者の自立や就労に向けた支援を行うほか、障がい関連事業所と連携し、ワークショップを開催すると記載しております。ここの前段の農福連携マッチング機関等とございますが、ここについて何をさせていただくかと申しますと、すでに本庁の障がい福祉課が、新潟市あぐりサポートセンター事業というもの、これは障がい者の就労に関する相談及び指導及び助言というところを行う課なのですが、そうした事業を展開しております、私ども区といたしましても、そのあぐりサポートセンターを活用しながら、障がいをお持ちの方や障がい福祉施設がより就労に取り組みやすい環境を整備したいと考えたところです。

障がい福祉施設等への聞き取りなどで、障がい福祉施設の職員の農業に関する知識の不足や、あと農業に関わる障がいをお持ちの方への指導がやはり難しいといった課題が見えてまいりましたことから、農業の知識に長けている方々から、農福連携のサポーターとして現場に出向いていただき、農作業について障がい福祉施設職員や障がいをお持ちの方への指導や助言を行っていただき、福祉施設や農家さんの負担感を減らすことで、作業の質の向上や、障がいをお持ちの方の農作業への継続的な従事を進めていきたいと考えています。この事業を農福連携サポーター事業として行っていきたいと考えておりますが、そのサポーターの募集や登録、農家さんへの派遣業務については、区があぐりサポートセンターへ委託して行っていきたいと考えております。

あと後段の障がい事業所と連携をしてワークショップを開催しますというものは、これは以前9月にも説明したのと同様、障がい関連事業所と連携をしまして、西区主催のイベントや市内の公共施設で市民参加型のワークショップを開催していくというもので、後者については変更ございません。

ページをおめくりいただきまして、2ページをお願いいたします。赤字の所で③番、子育て応援情報配信事業となっております。これは9月のときの部会のご説明では、子育て応援メール「hugukumi メール」配信と説明をさせていただいたのですが、この後区内部、区長、副区長、そして実際に健診に来られる若いお母さんたちや妊婦さんたちに事業の内容についてちょっと聞き取ってみました。そうしましたら、私どもはメールというのが配信されてくるのが情報としてはいいのかなと思っていたのですが、若いお母さん方はメールというのはほとんど使わないのだそうなので、それで一つ見えてまいりましたのは、やはりSNS、LINEであったり、Twitterであったり、Facebookであったり、Instagram、こういったものがやはり非常に活用されているということで、聞くと、LINEがやはり一番使い勝手がいいと思いますけど、という声が多かったです。

そこで内部でも検討させていただきまして、メールということで進めていきたいなと思っておりましたが、LINEというのは今基本なわけではないですが、一番使い勝手が良いものがどこなのか、LINEという声が多くなるとLINEがいいのか、場合によってはTwitterがいいのかということになってくるかと思うのですが、そのようにちょっと媒体を再検討させていただきまして、費用のほうもちょっと何十万か増えるのですが、妊娠期の母親の方々、お母さん方が一応孤立を防ぐというところを目的とさせていただい

ておりますが、妊娠期から3歳まで、医療等の専門家監修の母子保健や子育て情報、行政等の相談窓口や育児講座の行政情報というものを添付して、SNSで送らせていただいて、育児の孤立を防いで、産後うつというものを未然に防いでいくという取り組みを進めていきたいと思っております。健康福祉課からは以上です。

(堀地域課長)

続きまして地域課でございます。資料の3ページ、一番下でございます。西区スポーツ健康プロジェクトの欄をご覧ください。⑤番、2020 東京五輪機運醸成等事業といたしまして、来年の10月にみどりと森の運動公園野球場で予定されております日本ソフトボールリーグの公式戦に合わせ、イベントなどを開催したいというものでございます。皆さまご承知のとおり、女子のソフトボールは2008年の北京オリンピックで金メダルを獲得、2020年の東京オリンピックでも追加種目となっております、メダルへの期待が大きくなってございます。そういったことから、ここ西区の野球場でそういった大きな大会が行われるということを絶好の機会と捉えまして、具体的な組み立ては、これからになりますけれども、スポーツの素晴らしさ、あるいは西区の発信などに取り組みたいと考えておるものでございます。

以上、3事業につきまして、本日説明をいたしました追加の部分を含めまして、来年度、平成31年度、特色ある区づくり事業に取り組んでまいります。委員の皆さまからも引き続き、ご協力をお願いしたいと思っております。説明は以上でございます。

(岩協会長)

ただいまの説明について、何かご質問、ご意見等がございませんでしょうか。

< 2 議事 (3) 第3回 降雪時の取り組み (除雪) について >

(岩協会長)

なければ、続きまして、議事(3)第3回、降雪時の取り組み(除雪)についてでございます。降雪時の支え合いの取り組みをどうしたら広げられるか。グループワークでございます。ということでございます。これは前回に引き続き、区自治協議会でさらなる活性化のために区民と市の協働の要として、地域課題について地域で何ができるかということで、本会の場でも話し合いを行います。この話し合いの場は、市、区への要望の場ではないこと。行政と地域の役割分担の中で、地域、区民としてできることは何かを議論する場と考えております。今年の1月並みの豪雪ではなく、例年並みの降雪時において、地域での取り組みの輪を広げるため、10月から話し合ってきました。本日は第3回目、降雪に備えた取り組みの輪を広げるための課題解決のアイデアを、グループごとで話し合いをお願いいたします。それではこれからの進行は、加野委員をお願いいたします。

(加野委員)

前回に引き続きまして、西区支え合いのしくみづくり推進員の加野と申します。まずは

10月から自治協議会で話し合ってきたことについて、振り返りをさせていただきます。10月は地域の取り組みの現状共有ということで、地域の取り組み事例や課題についてご報告いただきまして、支え合いの取り組み、共助が進んでいる地域がある一方で、支え合いの団体への除雪の相談が殺到して対応できていないとか、支え手のマンパワーが足りないなどの、現状や課題があることが分かりました。資料3の右側、第2回の振り返りをご覧ください。前回11月は、降雪時に支え合いの取り組みの輪を地域で広げるためには、どんな課題があるのか、4つの地域別のグループで、現状、課題、感じていることに加えて、こうしたらいんじゃないかというアイデア等も出されて、幅広く話し合いが行われ、発表もしました。さまざまな課題が出ましたけれども、地域のつながりの大切さを感じつつも、マンパワーの不足ですとか、支え合いの考え方の周知の不足などの課題があることが分かりました。また黒埼、佐潟、中野小屋のグループでは、今は大丈夫ということでしたが、ただ次世代へのつながりや、協力体制を維持できるかというところが心配だという声が挙がりました。

資料左側2、話し合い（グループワーク）をご覧ください。本日は降雪時の地域での支え合いの取り組みの輪を広げるために、さまざまな課題の根本にある共通する課題としまして、地域での助け合いの大切さを、どのようにして広めて次世代へ、どんな形で、どんなふうにして伝えていくのかをテーマにして、限られた時間にはなりますが、グループごとにアイデア出しを行いたいと思います。

各グループの発表者を、事務局から事前に黄色い付箋がお席にペタッと張ってある方、その方が発表者になりますので、後ほどグループのまとめの発表をお願いしたいと思いますので、お心づもりをお願いしたいと思います。まずは皆さん、それぞれグループになっているかと思いますが、5分間、各自で机の上に付箋が配られているかと思いますが。こちら付箋とあとペンを持っていただきまして、付箋、7枚ぐらい皆さんにちょっと配っていただきたいと思います。

付箋、ペンを持ちましたら、まずは各自で考えをどんどん出す時間にしたいと思います。考える内容については皆さんのテーブルの所にあります。降雪時の支え合いの取り組みをどうやったら広げていくことができるか。今現状では地域でなかなか一部の人だけしかできていないという取り組みというところであれば、他の人たちに広げるにはどうしていったらいいのか。今できている地域については次世代につなげていくにはどうしたらいいのか。具体的な解決策を、どうしたらいいんだろう、どうやったらうまくいくんだろうというところを各自でアイデアを出して書いていただきたいと思います。5分ほど時間を取りますので、まずは各自でどんどんアイデアを書いていただければと思います。どうぞ。

<グループワーク>

(加野委員)

皆さん、どんどん書けている方はそのまま引き続き書いていただければと思いますが、

ちょっとアイデアつまってしまったなという方、前回話し合いで出てきた、もう解決策というか、そういったことも話し合われましたので、前回の話し合いでは、普段から共助の助け合いの考え方を広報紙とかで周知したほうがいいんじゃないかとか、次世代というところで子どもたちと一緒に何かできないかとか、あとは楽しめるとか、スポーツを通じてとか、そういったアイデアのヒントになるようなご意見が各グループから出ましたので、そういった所もヒントにしながら、支え合い、雪かきになったらみんなで協力してやるんだよっていうところ、そしてその仕組みづくりのところについてどう広げていったらいいのか、また今できている所はこれから次世代につなげていくためにどうしていったらいいのか、そういった解決策、具体的なアイデア等も含めて意見を出していただければと思います。あと、1分ほどで終わりにします。

<グループワーク>

(加野委員)

それではアイデア出しの時間は終わりにします。それではこれからグループの共有の時間にしたいと思います。グループで皆さんが書いた付箋を出しながら、発表していただきたいと思いますが、自分の意見、3つも、4つも、5つもある方は、1回で全部言わないで、一回りするときに1個ずつしゃべってください。なくなったら、私終わりましたと言っていただければいいと思いますので、すみませんが。それを11時30分までにしたいと思います。短くて申し訳ありませんが、タイトな感じで共有をしていただければと思います。それではお願いいたします。

<グループワーク>

(加野委員)

11時30分になりました。皆さん、意見、活発にされているかと思います。あと5分、発表までに時間を設けますので、その中で自治協として、または自治協委員として取り組めるアイデア等がありましたら、また追加で考えていただきたいのが一つ。そして5分後に発表者から発表していただきますので、グループで協力して出していただいたアイデアを整理し、後半に話し合った自治協として取り組めるアイデアも含めて発表のまとめをしていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。まだ終わっていない所はちょっとスピードアップして、もしあったら発表していない方もしていただきたいと思います。

<グループワーク>

(加野委員)

では11時35分に発表になりますので、よろしくお願いいたします。

それでは時間になりましたので、まだお話し合いが続いている所もあると思いますが、発表にいきたいと思います。よろしいでしょうか。それでは発表に行きます。じゃあ、1番に発表したいという所がありましたので、そこから先に行きます。それでは発表に行きますので、発表を聞いていただければと思います。

(佐野委員)

それでは主に坂井輪グループの発表から行いたいと思います。非常にたくさんの意見が出ましたが、より具体的な意見も出ましたので、具体的な意見からご説明したいと思います。やはり私たちが活動しているということを皆さんに知らせるということが一番大事だということで、例えば防災という意味で、秋に各中学校区単位で行われます防災訓練で、この機会を捉えまして、やはり中学生がすごく活躍しているわけですね。その活躍を伝える場を作りたいと。そういった発表の場を作ることによって、皆さまにもそういう活動をお知らせして、それを刺激として、さらにすごい活動を深めていきたいというご意見、それからあと自治協でもできること、先ほどおっしゃいましたけども、やはり便りを通じて、自治協だより、コミ協だよりでもう少し支え合いをクローズアップさせたいと。具体的な取り組みを毎回、毎回伝えることによって、皆さまにも認知していただきたい。自治協だより、コミ協だより、町内のたより、それを全て利用したらどうかということでした。

それから若い方でも、声をかけられないと、なかなか協力はできないと思うんですね。やはり私たちの高齢者の世代が、若い方に積極的に声掛けをしていこうと。そういう中で町内のイベントとか行事も親子で参加できるイベントで、親子を巻き込んで仲間づくりをしていこう。その仲間づくりの中で、中間世代の人たちが高齢者を支えるしくみづくりをしていって、結果的に自然に日ごろから、習慣的に皆さんがこの活動をできるようにしていったらよろしいのではないかということでした。

あと休日を利用した一斉雪かき日を設けるとか、自然に出てくるようになって、顔を合わせるようになるにつなげてくれる。私たちがそういう楽しいことをしているということも、ぜひ皆さんに、こういう高齢者が楽しんでいるという姿も見ていただけると、次の活動につながるのではないかというご意見でした。大体そんな感じでしょうか。以上です。

(加野委員)

トップバッターありがとうございました。では次のグループ、こちらも2番目に発表したいという声がありましたので、お願いします。

(風間委員)

それでは私のほうもいろいろ意見が出ましたが、まず基本的なこと、各自治会ごとに例えば道路状況と、道路の幅員とか、それから袋小路と言いますか、行き止まりがあるという、そういう状況はみんな違うので、自治会で責任を持ってその対策をまず練っていただくと。あと実際に除雪機械を使って業者を頼む場合は、市の業者ももちろんありますけれ

ども、「自治会で業者を選定して願います」というのがいいかなというお話が出ました。

それから日中ですと、なかなかお勤めの方とか、そういう方には当然お手伝いのできないので、自治会の役員を全部フル活動して、年齢的なこともありますけれども、役員に声をかけて、例えば要支援者と思われるご自宅の玄関先の除雪とか、あと意見の中で一番困っているのが、やはり道路が狭かったり、それから側溝がないとか、そういう雪の捨て場所をどうやって確保するか、各自治会ごとに確保するかというのが、答えは出ておりませんが、今一番の悩みという意見が出ております。あとは大人ばかりが一生懸命やるということもいいことなのですが、例えば土日とかあるいは休みのときに、子どもたちにも声をかけて、一緒に歩道の除雪をやっていただくとか、自治会内での声かけですね。それと自治会の班長を集めて、班ごとに除雪をやっていただくということでしょうか。

あとは班ごとがなかなか難しいようであれば、隣近所の方ととにかく声をかけあって除雪作業を具体的にやるということのお話が出ておりました。以上でございます。

(加野委員)

ありがとうございました。次はこちらのグループ、願います。

(山川委員)

私たちの班では、まずは隣近所の支え合いが一番大事なんじゃないかというお話が出ました。それで各種の自治会、老人会、PTAなどの集まりで、一度話し合ったほうがいいんじゃないかということになりました。あとは高齢者の一人暮らしの人たちを把握するために、民生委員などのお話を聞き、そういう人たちを把握したほうがいいんじゃないかという話になりました。あと親が一生懸命やっていけば、それを見ている子どもたちも、おのずと協力してくれるんじゃないかなとも思います。そして、中学生の考えを聞くということも出ました。

自治協議会で何かできないかという話ですが、それには何か標語を募集してはどうかという話がでました。例えば降雪時の支え合い、まずは隣近所から、そんな感じで標語を募集して、それをみんなに広めたほうが周知できるんじゃないかという話が出ました。以上です。

(加野委員)

ありがとうございました。それでは最後、何かすごいしっかりまとめられていたみたいなので期待しています。願います。

(永吉委員)

私どものグループでは、大きく項目に分けますと4つに分かれる意見がありました。まず一つはいわゆる地域の人々の参加する意識に対する意見と、自治会ごとのルールづくりとしての形成の方法として必要な所、自治会長になったときの役割としての責務。あと

はそれ以外にシステムやインフラ、各機関との連携に対してご意見という4つの分類がありました。

まず参加する側の意識としましては、とりあえず雪が降ったり、災害があったときには向こう三軒両隣の方々でも、とりあえず顔を出してコミュニケーションを取る機会をつくらうというのがまず意見でありまして、そのための手立てとして、班ごとの茶話会などを設けてみたりとか、あとはこれはちょっと地域連携のイベントみたいなもので、雪が何センチ積もったら、鎌倉づくりのイベントをやるよというような働きかけをして、雪が降った降雪を楽しむような手立てをして、雪かきにもつなげる手立てをとということでまず意見がありました。

あとは高齢者ですね。明らかにちょっと住んでらっしゃる方が無理だろうという場合には、積極的に大丈夫な方がとりあえず顔を出して、声をかけるという意識を持つのがまず大事だという話がありました。

それに対して、地域の自治会でルールを必ず作ったほうがいいのではないかとということで、輪番で班長をされているような自治会もあるということで、それで雪かき当番みたいなものも、ちゃんと非常時に備えて作っておいたほうがいいのではないかとということで、それに対しては積雪情報で条件を付けながらルールを作るのもまた一つの手だろうという意見がありました。

あとはルールとしては、支援を希望する人、支援できる人というのを班長ごとに登録をして、登録制によって人員把握ができるような方法を作ったほうがいいのではないかとという意見もありました。あとはそれにつながるころとしては、会長の役割ですね。いわゆるせっかく雪かきで、非常に優秀な仕事をした人がいた場合には、表彰をするというのも一つの方法であろうというのがありまして、あとはそのチームを統括して、出動のバランスなどを人員把握をして、指示をするのはやっぱり会長の役目だと思うので、そういうマニュアルをある程度作りながら進めていくのも手なのではないかとということでありました。

自治会長自体が輪番制とかでしのぐような形ではなくて、ちゃんと現状を理解して、通学路や高齢者の把握を少しでも理解を深められるように、やはり周知も必要なことではないかということでありました。

また今回のような支え合うしくみづくりのような、こういう活動も、やはり周知活動がいまいち進んでいないということで、班長レベルにもちゃんと伝わるような手立てをして、それをやっぱり会長には周知徹底していただく協力が必要であるということがありました。

あとは新中浜町内会で「おたすけ隊」があったと思うんですが、雪かきも同じように有償による支援隊みたいなものを各地域でできればいい取り組みなのではないかという意見がありました。あと除雪機を最低限自治会で用意できて、それをレンタルできるような形ができるとより良いのではないかとという話がありました。

各機関の連携としましては、まず農家との連携ができると一番いいのではないかとという話がありました。やっぱり機材を持っていますので、やはりそのような形が必要なのではないかとという話がありました。

あとはインフラとして、やはり市道で融雪が整備できるといいであろうという意見もありましたし、あとはもう2つ、これは若者対象のものなのですが、まず一つは中学校、小学校、もしくは新潟大学も含めて、除雪支援隊という隊を組織して、いわゆる有償ないし、無償は検討だと思うんですけども、困っている地域に出動できるような体制づくりも必要なのではないかという話もありました。

あとは小学校、中学校、高校の体育の授業で雪かきをしてもらうという意見もありましたのでこれは教育機関との連携かと思います。あと最後にもう一つ、いわゆるシステムに関わるところと、後は地域連携の話にもなるんですが、先ほどちょっと意見で、メールを見ない若者世代。ちょっと私より下の世代になると、やっぱりラインとかそういうもののほうがネットワークとしてしっかりと構築しているので、そこを自治会ごとにラインのネットワークを作って、うち雪降って大変だという情報をみんなで共有し合えば、助けてくれといったときに若い人が気付くんで、若い人で来れる人を募集という形で、若い人も能動的に地域のコミュニティの中に参加できる機会になるのではないかということで意見がありましたので、その項目についてご紹介させていただきました。以上です。

(加野委員)

ありがとうございました。短い時間の中で、本当にいろんなアイデアが出たと思います。自治会が取り組むべきこと、また自治協が取り組むべきこと、そしてまた若い人に参加してもらうための面白いアイデアがたくさん出てきたと思います。ぜひこういったこのアイデアを、今後また自治協とか部会のほうでもんで、今年の雪に間に合うかどうかは分かりませんが、ぜひいろんな取り組みに発展させていきたいなと思います。またこれからもこういった内容で皆さんと意見交換させていただくと思いますが、よろしくお願ひします。

(岩協会長)

ありがとうございました。今いろいろな意見が出ました。確かに地域事情、あとは子どもたちの協力、いろいろございますということで、皆さん方、今日出た議論を一つでも実行に結び付けていただければありがたいと。今日は議員さんも見えておられますけれども、新潟市はお金がないのですからということの頭の隅っこにおいて、主体性は自治会にあるということの一つ認識していただきたいと思っております。ありがとうございました。

< 3 報告 (1) 区自治協議会会長会議について (報告) >

(岩協会長)

それでは3 報告事項 (1) 西区自治協議会の会長会議の報告を私からさせていただきます。

先般、17日ですか。区の自治協議会の会長会議が本庁でございました。その概略を説明いたしたいと思ひます。皆さま方の所には当日配布資料として「区自治協議会会長会議概

要」をご覧ください。

「区自治協議会委員研修会アンケート結果について」でございます。皆さん方に研修会の記録が配られておりますので、詳細については後ほどご覧ください。

「区自治協議会委員研修会のアンケート結果について」、意見交換を行い、「全体的に時間が足りなかった」「次年度以降は、より早い時期に開催をすべき」などの意見がございました。私から見て全般的に議論と言いますか、発表の機会と言いますか、それが少なかったということも私も認めておりますし、年度末で委員改選日の前にやるよりは、もっと早く、行った方がいいということでございます。

「区自治協議会（第6期）の振り返り資料の作成について」ということでございます。継続委員の方はご存知かと思いますが、期末ごとに振り返り資料を作成しております。資料のまとめ方にバラつきがございます。より統一した形にした方が良いのではないかという意見が、一部会長から出てきました。ということは、皆さん方の所にはこの資料は行っておりませんが、期末ごとに分厚い西区自治協議会の事業内容について、概要とプロセスとか結果と、こういうことが出ておりますので、それを各区によって形式が違っているので、分かりやすくしたほうが良いのではないかという意見でございます。

「次期委員改選に向けた検討状況等について」です。次期委員改選状況について説明があり、委員の任期等について、各区の検討結果の説明がありました。

また公募委員については、公募委員の多様な意見が必要だが、応募人数が少なくなってきたなどの意見がございました。私、先ほど少しこの件について申し上げました。

「地域コミュニティ協議会への支援に関する評価について」です。平成26年度に開催された「地域コミュニティ協議会の支援のあり方検討委員会」の報告書に沿って実施された市の施策に対する評価結果について、意見交換を行いました。評価結果については、概ね評価できるものであったこと、一方で「事務局拠点の確保」や「人材育成」の地域貢献性の評価がまだまだ不十分という課題があり、今後見直していく必要があると、各区会長も同じような認識でございました。補足説明しておきますけれども、事務局の拠点確保ということは、各コミ協で自分の自前の事務所といますか、そういう集会所を持っていないところが中央区も結構多いし、西区も一部ございます。そういった所を指します。

それから人材育成ということは、これは自治会及びコミ協の後継者不足ということでございます。

私からの報告は以上となります。何か、走り走りで申し訳ございません。ご質問等がございましたら、お受けいたします。よろしいですか。

< 4 その他 >

(岩協会長)

それではその他のほうに入ります。次第の最後はその他です。委員の皆さまからのお知らせ、または事務局からの連絡事項はございませんでしょうか。お願いいたします。

(事務局)

それでは事務局よりご連絡申し上げます。次回会議の開催日についてご連絡となります。本日お配りいたしましたお手元の平成30年度西区自治協議会開催予定、A4資料をご覧ください。次回第10回自治協議会は、1月29日の火曜日、午後3時から。会場は西区役所健康センター棟3階大会議室で開催させていただきます。会議の議題等につきましては、運営会議と調整させていただき、改めて皆さまのほうへご案内させていただきますので、よろしくお願いいたします。

また11月の本会で鍋谷委員から、区長がどのように地域への愛着を考えているのかお聞きしたいというご依頼がございました。これにつきましては、次回の第2部会で区長よりご説明させていただきたいと考えておりますので、第2部会以外の方でご希望される方は、第2部会へご出席いただきますよう、よろしくお願いいたします。また第2部会以外の方でご出席を希望される方におかれましては、席等の関係がございましたので、事前に事務局までお申し出いただければ、ありがたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

続きまして、委員の方には11月21日開催の区自治協議会委員研修会の記録、A4の両面とじ冊子になっているものを配布させていただきましたので、後ほどご覧いただければと思います。

また1号委員の皆さまにおかれましては、本日コミュニティ協議会会長さま宛に、来期の委員の推薦依頼を同封させていただきました。つきましては、来年2月27日までに事務局まで推薦をお願いできればと思いますので、よろしくお願いいたします。

その他の団体や有識者等につきましては、推薦会議を経まして、1月末に依頼させていただく予定としております。そのほかは広報紙でございますので、後ほどご覧いただければと思います。

(岩協会長)

ありがとうございます。委員の皆さん方、加野委員、お願いします。

(加野委員)

すみません。加野です。先ほどの大雪について、地域の取り組みについてお話し合いをありがとうございました。もし、自分の地域で大雪ってどういうふうに地域の助け合いをしたほうがいいかなという話し合いの機会とかございましたら、ぜひ支え合いのしくみづくり推進員にお声がけいただければと思います。自分の自治会の所で話し合いするからちょっと来てと言っていたら、いつでもお伺いいたしますので、よろしくお願いいたします。

(岩協会長)

ありがとうございました。ここで私からの提案でございます。1年の締めくくりとして

でございます。当黒埼地区の山田校区ふれあい協議会長の藤橋委員から詩吟をお願いしたいと思いますが、皆さま方よろしいでしょうか。それでは藤橋委員、お願いいたします。

<藤橋委員の詩吟>

(岩協会長)

素晴らしい歌、どうもありがとうございました。やきふな太鼓。今日おられる委員の皆さまの頭に、脳裏に刻み込まれましたので、ありがとうございました。

それでは最後に師走でございますので、一言あいさつをお願いいたします。

(坂井委員)

会長、いいですか。その前に。

(岩協会長)

どうぞ。

(坂井委員)

先ほど除雪のいろいろ意見が出たものを何かの形でとりまとめますか。

(堀地域課長)

自治協だよりで紹介させていただきますし、区だよりでも何かしらの形でお知らせしようと思っています。

(岩協会長)

よろしいですね。ありがとうございました。それでは区長、お願いいたします。

(笠原区長)

皆さま、大変おつかれさまでございました。今ほど藤橋会長の素晴らしい詩吟の後に、私のあいさつで大変申し訳ないのですが、お聞きいただければと思います。改めまして、今年一年の皆さま方に対し、御礼差し上げたいと思っております。本年でございますが、岩協会長さまをはじめ、委員の皆さま方のお力添えによりまして、安心、安全でそして自慢できる西区を目指し、区の運営を皆さまのお力によりまして行うことができました。御礼申し上げます。ありがとうございます。少しお時間をいただき、本年度でございますが、振り返ってみますと、1月11日からの大雪から始まりました。例年の4倍を超える降雪でございまして、区民の皆さま方の日常生活に大きな支障をきたしてしまいましたことに、改めてお詫び申し上げます。

先日の自治協でもお話差し上げましたが、本年の降雪、大雪を踏まえまして、区の除雪

も強化いたしておりますので、どうか皆さま方のお力添えもまた引き続きよろしくお願
いしたいと思っております。

そして5月でございます。青山水道地内で小学生の尊い命を失うという大変痛ましい事
件が発生いたしました。事件発生から1週間で容疑者が逮捕され、ひとまず安堵は致しま
したが、その事件発生以降、地域の皆さま方からは地域の見守り、そして通学路の危険個
所の総点検と、皆さま方の大きなお力添えをいただき、地域の見守りも強化いただき
ました。改めて地域の大きな力というのを承知したところでございます。

そして全国的に多くの自然災害が発生した年でもございます。西日本での地震や豪雨、
そして北海道での地震など、全国で大きな被害が発生しましたが、幸いにも西区におきま
しては、そうした自然災害の大きな被害はございませんでした。しかし、赤塚にごぞいま
す西区の宝の一つでございます中原邸の塀が倒壊するという、これは西区、そして地元の
皆さま方にとりましても、大変ショックな被害がございました。

改めて災害はいつ起きるか分からないということ承知させられた年でもございますが、
自治協の取り組みの中でも、先ほどの防災カードも作成していただきまして、日ごろの備
えというものを強化していただいたということに対して、改めて感謝しております。

以上、地域の見守りですとか、防災、さらには人口減少、そして健康寿命の延伸など、
地域の課題というのは本当に多様化、複雑化しておりまして、ひとところと違いまして、役
所だけで解決できるというものも本当に少なくなっております。皆さま方のお力添えをい
ただきながら、地域との協働により、これからもそういった地域の課題に取り組んでいき
たいと考えておりますので、皆さま方からも引き続きご協力賜りますよう、よろしくお願
い申し上げます。

そうした中、皆さま方には10月から本会の自治協の場で、まずは除雪をテーマに協働に
よる取り組みを始めていただいております。誠にありがとうございます。そして市内8つ
の自治協の中でもこうした取り組みが始められているのは西区であり、最も活動が活発な
のではないかと、大変感謝いたしております。

先月でございますが、佐潟の紹介、そして今回は黒埼の歴史のお話をいただき、そして
さらには1年の締めくくりといたしまして、藤橋会長の詩吟まで聞かせていただきまして、
皆さま方のおもてなしにも大変感謝いたしております。

区役所でございますが、来年も職員一同、地域の課題解決に取り組んでまいりますので、
どうぞ皆さま方も引き続きお力添えを賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。恐縮
でございますが、皆さまが良いお年をお迎えられますことをご祈念申し上げまして、ちょ
っとお時間いただいて申し訳ございませんでしたが、私の今年一年の御礼のごあいさつと
させていただきます。どうもありがとうございます。また来年もどうかよろしくお願
いいたします。

(岩協会長)

区長があいさつということでございますので、私も自治協議会を代表して、ごあいさつ

をしなければと思っております。去年皆さま方に私の所のエリアで起きました、先ほどの
女児殺害の案件につきましては、行政の方々、また警察の方々、いろいろなまた地域の方々、
また8区の市民の方々、いろいろな方々にご迷惑をおかけいたしました。この場を借りま
して、一応方向性は決まりましたので、関係機関の方々に12月1日にあいさつに回ってま
いりました。第1部会で報告をしておきましたので、どうもご迷惑をかけまして申し訳ご
ざいませんでした。

それと先般、ちょっと時間かかりますけど、17日、市長との意見交換で、私どもの西区
のテーマとして、皆さま方からのご意見を聞いた中で西区の概況では海岸端の402号線の
飛砂の除去の問題。あれは新潟市で全額補填していると。それは別にしても赤塚の飛砂の
問題。畑の問題。これはずっと西蒲から北区まで延長しておりますということで、これに
つきましてもパイプがある国、県と、一つご協力をお願いしたいということをおし上げて
おきました。

もう一つはコミ協の拠点化活性ということでございます。まだまだ拠点の事務所がない
ということで、これもすぐ解決できる問題ではございません。ということで、行政当局に
もこれらのものも解決していただきたいと、そうしないと住民自治の場所がないとうまく
ないという意見も申し上げておりました。ということでどうもいろいろと今年一年ありが
とうございました。また皆さま方の活発な審議に感謝いたします。新年のご健勝と、ご多
幸を祈念して、それではこれで平成30年度第9回の西区自治協議会を閉会いたします。ど
うもありがとうございました。

(終了)